

NO! リニア

No. 105

2018年10月24日

JR東海労働組合

「基本協定案」の湧水対処は中途半端！ 静岡県知事の見解は正しい

リニア中央新幹線の南アルプストンネル工事をめぐる大井川の流出問題で、JR東海金子社長は「原則、湧水の全量は大井川に戻す」との見解を示し、利水者の合意を得ようとした。これに対し、川勝静岡県知事は「『原則』という表現は中途半端。未来にわたって水源を確保しなければならない」と、見解を示しました。

「原則」という言葉は逃げ道

金子社長の見解は、流失した水は全て戻すと受け止めがちですが、「原則」と付けば「そうではない場合もある」ことを示すことになります。つまり、逃げ道があるということです。

湧水量は毎秒2トンを見込んでいますが、想定外の湧水が発生した場合、全量に戻すことはしないと考えるべきです。

毎秒2トンの湧水はどのように返すのか？

計画によると、湧水はポンプで戻すとしています。しかし、毎秒2トンもの大量の水を返すシステムはどうなっているのでしょうか？ 1機のポンプでは毎秒2トンは無理でしょう。何機設置するのでしょうか？ 故障や点検などの場合を想定して、予備のポンプが必要でしょう。台風24号の災害では、長期にわたり停電が発生しました。特に山間部は復旧が遅れました。停電対策はどうなっているのでしょうか。24時間365日管理しなければなりません。誰がやるのでしょうか？

毎秒2トンの根拠は未だ不明！

川勝県知事は、毎秒2トンの根拠について見解を求めています。会社は根拠を示していません。国土交通省は環境アセスメントの報告を基に認可しました。問題は、湧水量の算定の根拠無しに環境アセスメントが進められたこと、そしてそれを鵜呑みにして認可を出した国土交通省の杜撰さです。直ちに認可を取り消すべきです。

湧水に戻すのは30年？

仮に、全湧水量を戻すことができたとしても、会社は未来永遠にわたってやるのでしょうか？ 実験線の建設でも河川の枯渇が発生しましたが、保証は30年です。大井川も30年で打ち切りにするのでしょうか？

会社はこの間、住民説明会では、質問を制限したり、時間で打ち切りにしたり、質問の回答を避けたり、真摯な話し合いは行ってきませんでした。「住民との話し合いは丁寧に行っている」と会社は言いますが、まったくのデタラメです。平気でウソをつく会社のことから、工事契約や協定などを締結しても、反故にされる可能性は大ではないでしょうか？